

令和2年度 「国有林モニターアンケート（第1回）」調査結果

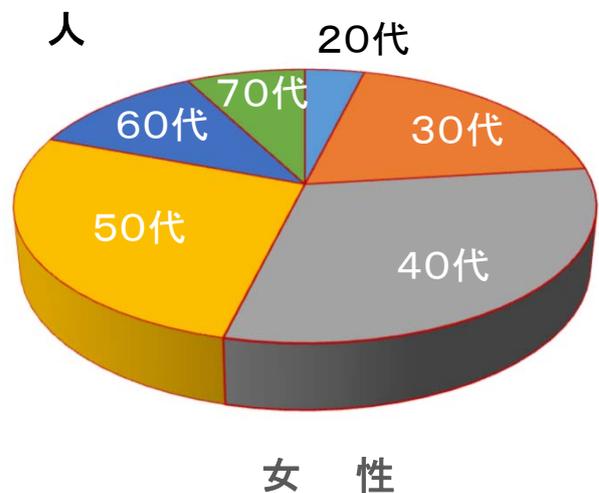
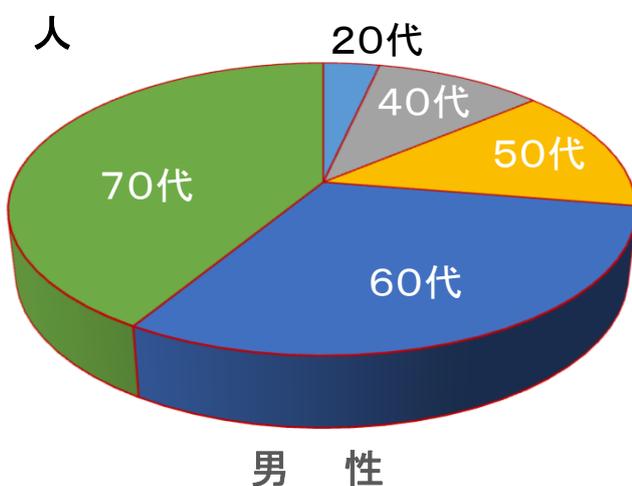
近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

今回は、5月に送付させていただきました近畿中国森林管理局「令和2年度重点取組事項」の内容を中心として設問を用意し、記述での回答箇所を設けましたが、いかがでしたでしょうか。

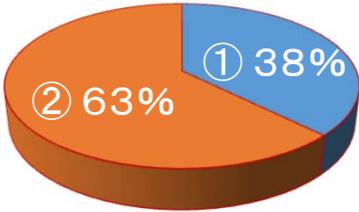
調査時期	令和2年7月		
調査方法	アンケート用紙の郵送による回答及びホームページの専用フォームからの回答		
回収状況	アンケート依頼モニター数	77	名
	アンケートの回答者数	56	名
	アンケートの回答率	73	%

ご回答いただいたモニターの年代別構成 (人)

区分	男性	女性	計
20代	1	1	2
30代	0	5	5
40代	3	8	11
50代	4	7	11
60代	9	3	12
70代	13	2	15
計	30	26	56



質問1	皆さまにとって国有林は、身近な存在として感じられますか。次の中からお選びください。		
①	国有林は身近に感じられる	21	38%
②	国有林は身近に感じられない	35	63%
計		56	



※四捨五入により合計は100%になっていません。

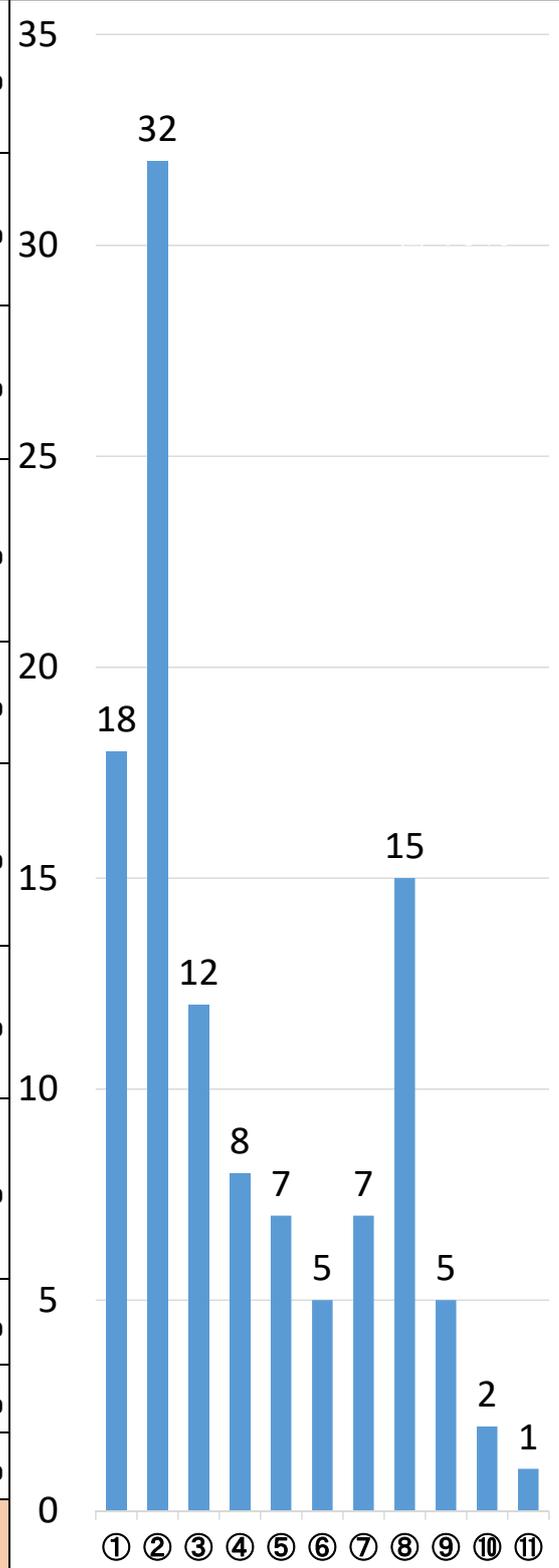
質問2	質問1で「国有林は身近に感じられる」とご回答された皆さまにお伺いします。そのように感じられた理由をお書きください。
<ul style="list-style-type: none"> ○国有林モニターになってから、日本の美しの森に行ってみたため。 ○山林がほとんどの土地に生活しており、身近に国有林の看板を見たり聞いたりするため。 ○住んでいる県内にも国有林があり森林浴とか森林に触れることもあるため。 ○国有林モニターになり、冊子などの資料を読んで、いろいろな取組を知り、身近に感じられるようになったため。 ○登山やサイクリングで山間部を訪れることが多いから。 ○近くに国有林があり、幼い頃より自然観察や自然散策の場として慣れ親しんできたため。 ○普段から山に行くときに、国有林の看板や台風後の処理などをみて身近に感じるため。 ○国自ら林業経営をしているので、林業に携わっている者として心強く身近に感じるため。 ○植樹の機会が度々あるから。 ○最近では災害時の土砂崩れなどから決して自分から遠くないことだと感じたため。 	
<p>お住まいの近くの国有林を訪れたり、日ごろから森林に触れたりしている方々からの回答を多くいただきました。</p>	

質問3	質問1で「国有林は身近に感じられない」とご回答された皆さまにお伺いします。国有林にどのようなイメージをお持ちですか。
<ul style="list-style-type: none"> ○あまりよくわからない。普段どこに国有林があるか意識していない。 ○国有林が近くにあるのかもわからない。有名な山岳地帯では標柱を見ることもある。 ○奥まった県境当たりに広がっている未利用の原生林のような山林というイメージ。 ○計画的に管理がされておらず、将来性がない。 ○あまり関わりがないようなイメージ、山の中の森林という感じ。 ○野生動物の保護、文化的な観点からの保護のために指定しているイメージ。 ○国の財産であるが、具体的にどのように利活用されているのかイメージがわからない。 ○地域では個人で山を持っている人が多いので、国有林よりも、個人の山という認識が強い。 ○国がきちんと管理しており、立ち入り禁止の保護区のようなイメージ。 ○具体的にどのような営林がされているのか、情報開示が身近ではないため、詳細が分かりにくい。 ○どれが国有林なのか、管理をどのように行っているのか、実感することが出来ない。 ○マスコミや行政の広報に於いて、取り上げて頂く機会が少ない。 ○国有林からの国民に向けてのアピールが皆無に近く感じられる。 	
<p>国有林がどこにあるのか、森林をみてもそれが国有林なのか分からないというご意見を多くいただきました。</p>	

(単位：人)

質問4 令和2年度の林野関係当初予算は、約3,400億円計上されていますが、皆さまは、次のどの分野の経費に予算を手厚く配分されるべきだと思いますか。次の中から二つお選び下さい。

順位	分野	人数	割合
①	林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するため、間伐や路網整備、再造林を推進する経費	18	16%
②	豪雨災害等、激甚化する災害に対する山地防災力強化のため、荒廃山地の復旧・予防対策、総合的な流木対策等を推進する経費	32	29%
③	森林・山村の多面的機能の発揮を図るため、地域住民等による森林の保全管理や森林資源の利用等の取組を支援する経費	12	11%
④	国有林における情報発信や木道整備等の実施とともに、森林空間を健康、観光、教育等の分野で活用する新たなサービス産業の創出を支援する経費	8	7%
⑤	花粉症対策苗木への植替の支援、花粉飛散防止・抑制への調査研究に係る経費	7	6%
⑥	ICTにより資源管理や生産管理を行う「スマート林業」の推進や、早生樹の利用拡大、自動化機械や木質系新素材の開発等先進的な取組のための経費	5	5%
⑦	シカによる森林被害の防止に向けた捕獲の実施や捕獲技術の実証・開発、森林病虫害による被害防止対策の実施・検討のための経費	7	6%
⑧	新規就業者の確保・育成、林業への就業前の青年に対する給付金の支給、市町村の森林・林業担当職員を支援する技術者の育成等を行うための経費	15	13%
⑨	木材需要の創出及び木材産業・木造建築活性化対策の経費	5	5%
⑩	その他()	2	2%
⑪	無回答	1	1%
計		112	



※⑩その他()は(関係者以外に向けたアピールの経費)、(現場の就業者が安全に、安心して長い間従事するための経費)
※四捨五入により合計は100%になっていません。

災害復旧と予防対策に充てる経費に次いで、適切な森林整備に充てる経費が上位となりました。

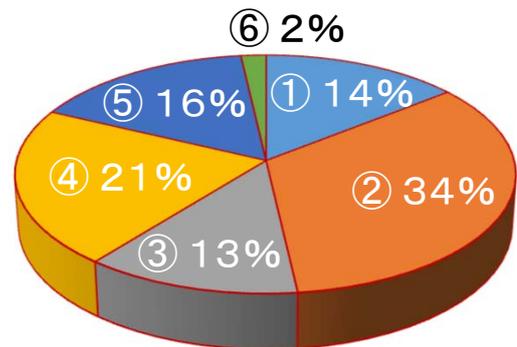
(単位 : %)

質問5 先日送付しました、近畿中国森林管理局「令和2年度重点取組事項」の中の I 公益重視の管理経営の一層の推進(P1~5)の中で、皆さまが最も興味をひかれたものは何ですか。次の中から一つお選びください。			
①	ICT等を活用した国有林の管理経営の推進	13	23%
②	シカ被害対策	16	29%
③	治山・災害復旧対策の推進	20	36%
④	生物多様性の保全	6	11%
⑤	無回答	1	2%
計		56	

※四捨五入により合計は100%になっていません。

質問5	選ばれた理由をお書きください
	<p>①森林情報のデジタルデータ化やICT活用が、森林被害の効率的な把握や災害復旧のスピード化につながると感じたから。</p> <p>①作業効率をあげドローンやデータのデジタル化を図ることは森林の適正な管理と共に災害から国民を迅速に守る事につながると考えるから。</p> <p>①コロナのことがあり、今からはICTの活用が必須ではないかと思ったため。</p> <p>①交通不便で且つ広大な面積をいかに監視下に置けるかが第一歩と考えるため。</p> <p>①ICT等の活用により、人による経費などの大きな変化があらわれていると思ったから。</p> <p>②シカやイノシシ、サル、ハクビシンなどの被害が樹木だけでなく畑の方にも拡大し耕作意欲が削がれているため。</p> <p>②里山、人の住むところまでやって来るシカの対策が急務。</p> <p>②シカ等の農地に対する被害が大きいので、駆除する必要があるため。</p> <p>②身近な山や里が荒らされて作物等かなり被害を受けているため。</p> <p>②当地においても、鹿をはじめとした獣害で農作物の栽培を放棄する動きがあるため。</p> <p>②ニホンジカが増加し国有林被害が深刻だという報道を見てから気になっていたため。</p> <p>③林野の災害復旧は国有林の管理運営の礎をなすものであることから。</p> <p>③子供の頃の記憶と比べても近年の災害の大きさは目にあまる状況と感じているため。</p> <p>③災害後の対処ばかりで、事前の整備がされているようには思えないため。</p> <p>③どの項目もとても大切なものであるが、災害が起きた場合には、復旧までの時間がとてもかかるから。</p> <p>③異常気象で頻発する大雨による洪水と土砂災害の危険性が高まっているため。</p> <p>③復旧を急いでおこななければ次の災害に間に合わなくなってくると考えたため。</p> <p>③ここ数年の全国各地で起こる自然災害の中に、山崩れや土砂の流入による被害が増えていると感じるから。</p> <p>③災害、治山は、人間の生命に関わってくる一番重要な事だと思うから。</p> <p>④多様な生物が生息する環境を構築することで、ひいては人間の持続可能性に多大な貢献も生じてくると考えるため。</p> <p>④山を守ることは海を守ることに繋がるから。</p> <p>④子供のころとくらべ、多様性が減っているため。</p>
	<p>③と回答された方の多くは、近年の豪雨災害等の異常気象を理由に挙げられました。②については、農地や山への被害を実感されている方々からの回答が多くなりました。</p>

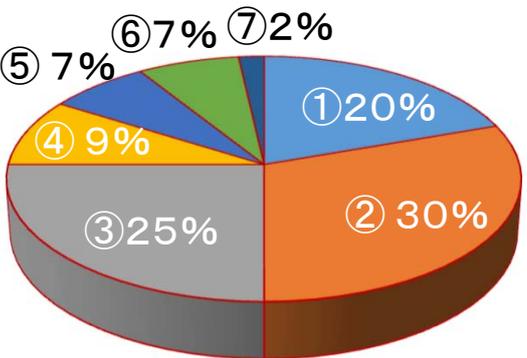
質問6 近畿中国森林管理局「令和2年度重点取組事項」の中のⅡ林業の成長産業化に向けた貢献(P6～10)の中で、皆さまが最も興味をひかれたものは何ですか。次の中から一つお選びください。		
①	林業の成長産業化に向けた民有林への支援	8 14%
②	民有林と連携した森林整備等の推進	19 34%
③	林業の低コスト化の推進	7 13%
④	林産物の安定的な供給と林業事業者等の育成・強化	12 21%
⑤	技術開発と普及	9 16%
⑥	無回答	1 2%
計		56



質問6	選ばれた理由をお書きください
	<p>①植林された民有林がそのままの状態になっているため(私自身が小学生の頃に植林したスギがそのままになっている)。</p> <p>①民有林保有団体だけでは、林業の発展的な成長や森林資源の有効な活用に限界があると感じているため。</p> <p>①しっかりと収益を上げて行かないと、持続可能性も図れなくなるため。</p> <p>②官民一体となり、所有者も不明確で管理されていない森林の管理を進めることで、日本の森全体を活性化できるのではないかと考えたため。</p> <p>②関係者の高齢化と後継者不足対策の一つとして、地域連携が重要と考えたため。</p> <p>②民有林を管理運営する人が減少・高齢化しており、民間を指導していくうえでも必要な施策だと思うため。</p> <p>②放置され、手入れのなされていない森林があまりにも多いから。</p> <p>②何事も官民が一緒に進めていくと良い気がするから。</p> <p>②異常気候もあるとは思いますが、山が昔のようにきれいだったら土砂災害もここまでひどくならないのではと思ったため。</p> <p>②民有林の販路拡大への支援、国有林と共同した販路拡大が効果的ではないか。</p> <p>③どうしたら低コストになるかを常に考えているイメージがあるため。</p> <p>③低コスト化を実現する事で、収益性が向上し、若者の林業離れが止められるから。</p> <p>③管理を継続することは費用負担が継続することになる。費用が安くなれば、より広範囲の管理も可能になるため。</p> <p>④林業からの若者離れを食い止め、生活が保障されていることを示し、魅力をさらに発信していく必要があると思うため。</p> <p>④意欲と能力を持つ林業経営者づくり(人づくり)が基本と考えるため。</p> <p>④林業だけでなく、農業や漁業等の第一次産業の発展が不可欠。</p> <p>④国産木材を多方面に活用するための人材育成、技術強化などに力を入れてほしい。</p> <p>⑤森林管理や林業経営の推進には、先端技術の活用が不可欠であると感じたため。</p> <p>⑤新しい技術によって林業がより効率的になれば林業従事者も増える。様々な技術革新を継続的に起こしていくことが重要だと考えたから。</p> <p>⑤林業関連は大幅に技術開発が遅れている現状を打破する必要があるため。</p>
	<p>高齢化に伴う人手不足等を背景に、国有林と民有林の効果的な連携や事業者などの担い手の確保、育成を望む声を多くいただきました。</p>

(単位 : %)

質問7	近畿中国森林管理局「令和2年度重点取組事項」の中のⅢ国民の森林としての管理経営(P11～13)の中で、皆さまが最も興味をひかれたものは何ですか。次の中から一つお選びください。		
①	観光資源としての積極的活用	11	20%
②	国民参加の森林づくり	17	30%
③	森林環境教育の推進	14	25%
④	多様な情報受発信	5	9%
⑤	伝統文化の継承への貢献	4	7%
⑥	大学、試験研究機関との連携の強化	4	7%
⑦	無回答	1	2%
計		56	



質問7	選ばれた理由をお書きください
<p>① キャンプが流行っている今、観光として活用できたらいいと思うため。</p> <p>① 今まで以上にアウトドアに行かれる方が増えたため。観光を考えながら、ゴミ問題など考えなくてはならないと思う。</p> <p>① 観光資源として整備・活用できれば、地元の活性化や環境保全(美化も含む)への派生効果が期待できるため。</p> <p>① 森林は国土の70%を占めており、国民がもっと親しんだり、身近に接する機会が必要と考えるため。</p> <p>② 国土の大半が森林であるのに、携わる人が少なすぎると思うため。</p> <p>② 里山林の衰退をはじめ、森林に対する関心が急速に薄れており、市民(納税者)が現況を体験する機会を増やすことに意味があると考えたため。</p> <p>② 参加型イベントや体験型ワークショップを通して一人一人が森林づくりに関わっているという意識を醸成することが重要。</p> <p>② 無関心だった方に興味を持って頂くことが望ましいと考えるため。そのためには、多くの人が参加できる企画が重要だと考える。</p> <p>② 長期的参加ではなく、一時的な体験でも得ることは多いと思う。</p> <p>③ 土日に未就学児が親子あるいは子どもたちだけで冒険できるような場所がもっと増えるといいなという期待も込めて。</p> <p>③ 現在の地球環境のことを考えれば、これからは「ESD」が、一番大切だと思うから。</p> <p>③ 国有林の持ち主である国民の理解、協力が大事だと考えたため。</p> <p>③ 多くの国民へ森林行政を理解・周知するためには学校教育の中で丁寧に取り組むことが必要である。小中学校での社会教育を充実すべき。</p> <p>③ 担い手を増やしていくためには、幼少期からの体験や経験が大切だと考えているため。</p> <p>④ 他産業においては様々なPRが展開されているが、林業はまだ不十分だと思う。</p> <p>⑤ 文化財などの修復に必要な木は、どの種類の木でも良いわけではないということを知って興味を持ったため。</p> <p>⑥ 異なる組織が持つ知恵や技術を活用した事業推進に期待したいため。</p>	
<p>若年層や、森林との関りが薄い人も含めて、国民の皆さまが森林に目を向けることを重視する旨の回答を多くいただきました。</p>	

(単位：%)

質問8	適切に整備された森林から生産された木材を利用することは地球温暖化の防止や、森林の多面的機能の発揮等に貢献します。皆さまはどのような用途に木材を利用していきべきだと思いますか。次の中から一つお選びください。			
①	柱や壁、床等の建築物での利用	28	50%	
②	ウッドデッキや木塀、木柵、ベンチ等屋外での利用	4	7%	
③	家具等の日用品	4	7%	
④	薪炭材や木質バイオマス等の再生可能エネルギー源	10	18%	
⑤	セルロースナノファイバー(CNF)や改質リグニン等の新材料	6	11%	
⑥	木材を利用するべきではない	0	0%	
⑦	その他()	3	5%	
⑧	無回答	1	2%	
計		56		

※⑦その他()は、(全て)、(プラスチックにかわる木質のトレイ、ラッピング材、レジ袋、建材、内装材)、(文房具、おもちゃ等)

※その他欄に記入いただいた(小学校)と(小・中・高・大等の公共施設)は①、(間伐材の薪材としての利用)と(最後まで使い切る方法)は④として集計させていただきました。

ほぼすべての方から何らかの形で木材を利用するべきとの回答をいただき、用途については「建築物での利用」が半数を占める結果となりました。

(単位：%)

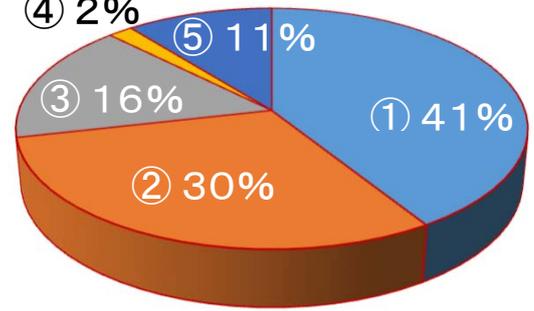
質問9	近年、企業等によるSDGsの取組にも代表されるように、様々な経済活動においても持続可能性を重視する機運が高まっています。皆さまは紙製品や家具などの木材製品を購入する際に、適切に管理されていると認められた森林から生産された木材(森林認証材)や合法的に伐採されたことが確認された木材(クリーンウッド)、森林の成長を促進するために一部の木を伐採する際に発生する木材(間伐材)が使用されていることを意識しますか。			
①	意識する	32	57%	
②	意識しない	13	23%	
③	分からない	10	18%	
④	無回答	1	2%	
計		56		

約8割の方が認証材や合法伐採木材、間伐材について認識している一方、消費の場面で意識する方は約6割にとどまっており、更なる普及啓発が必要であることが分かりました。



(単位：%)

質問10	皆さまは、国有林モニターとしての活動の内容や、活動を通して知ったことを身の回りのどのような人たちに向けて伝えたいと思っていますか。次の中から当てはまるものをお選びください。		
①	家族や友人に話したい	23	41%
②	知人や同僚に話したい	17	30%
③	SNSや地域の冊子などで多くの人々に発信したい	9	16%
④	誰かに伝えようとは思わない	1	2%
⑤	その他()	6	11%
計		56	



※複数のご回答を頂いた場合は、より広い範囲と思われるものを集計しております。
 ※⑤その他()は(行政との会合の場等で伝えたい)が3件、(仕事を通して人に伝えたい)、
 (子どもたちに伝えたい)、(職場や地域の方々との雑談を通して伝えたい)

ほぼすべての方から家族や知人、同僚を含む身の回りの方々に発信したいとの回答を頂きました。⑤その他では「行政」に訴えかけていきたいとの回答も複数頂きました。

以上、令和2年度国有林モニターアンケート(第1回)調査結果でした。
 ご協力ありがとうございました。

質問11	近畿中国森林管理局における「令和2年度重点取組事項」やこれまで送付させていただいた各種冊子等の中で、特にわかりづらい表現や専門用語等があればお聞かせください。
------	---

1 リモートセンシング

対象を非接触で計測・観測する技術であり、遠隔探査技術とも呼ばれます。一般的には人工衛星や航空機などにより地上より離れたところから、可視光線や紫外線、赤外線などの様々な電磁波を用いて陸上・海洋・大気などの様々な現象や物体についての情報を得るための技術のことを指します。林業においては、主に森林資源量の調査や境界の明確化、路網の把握、計画等を目的として、森林の規模に応じて航空機やUAV(ドローン)を活用して得られた写真や測量データを解析する試みが各地で行われています。

2 早生樹造林

早生樹は10～25年程度の短い伐期での施業が可能な成長の早い樹種のことで、センダン・ユリノキ・チャンチンモドキ・コウヨウザン等が早生樹とされています。一般的な造林樹種であるスギ、ヒノキではなく早生樹の苗木を用いて造林することを早生樹造林と呼び、早期に収穫ができる早生樹の造林が広まれば、短期間で多くの伐採が行えることによる収入の増加や、苗木が成長するまでに行う下刈りの回数を削減できることによるコストの低下などが期待されています。

3 クアオルト健康ウォーキング

ドイツの健康保養地(クアオルト)で心筋梗塞や骨粗しょう症等の患者がリハビリや運動療法として行っているウォーキングを元に考案された、健康づくりのためのウォーキング法です。先日公開された令和元年度版林業白書では、山形県上山市において市民の健康増進や交流拡大を目的として、森林を活用したコースでクアオルト健康ウォーキングを実施している事例が取り上げられています。

4 樵木(こりき)林業

情報誌林野では、「徳島県南部の常緑広葉樹林(カシ、シイ、ウバメガシ、ツバキ等)を対象とした択伐矮林更新(たくばつわいりんこうしん)法」とありますが、「樵木」との名称については当地で伐採された広葉樹材が主に薪炭材として利用されていたことから、薪木を意味する「ボサ」「ホダギ」「タマギ」「コリキ」等の言葉が語源となったと考えられています。